

令和7年度入学 一般選抜後期日程

論説 講評

企業の農業参入を題材にした問題である。資料として、企業の農業参入の概要、農地を借りて農業に参入した企業数や参入形態などのデータ、農地法改正前後の農業に参入した企業の変化に関する文章とデータ、企業の農業参入の目的や失敗事例などについての文章を提示した。これらの資料に示されている情報や事象を読み取り、簡潔かつ的確に文章化する力、一定の条件下で課題解決への道筋を考察し、論述する力をみることを主な目的とした。

問1

【出題のねらい】

(1) は、企業が農地を借りて農業に参入することに関する解説資料から、企業の農業参入の動向を読み取る問いである。(2) は、企業が農業に参入する場合の流れを示した図より、企業の参入形態の特徴について読み取る問いである。いずれも、与えられた資料から注目する事象や情報を的確に把握する力、把握した事柄を簡潔に記述する力を評価した。

【講評】

(1) の解答状況はあまり良好ではなかった。企業の農業参入を理解するうえでは法改正のタイミングに注目すべきであるが、ここに着眼しないまま、グラフを解釈した解答が散見された。データを部分的に読み取るのではなく、事象の全体像を把握し、抽出する力が必要であった。(2) の解答状況はおおむね良好であった。一方で、農地を借りることに注目しなかったため、減点対象となった受験者もいた。問われている内容を適切に理解しないと、資料から読み取るべき点を見落とすことにつながってしまう。

問2

【出題のねらい】

(1) は、農業に参入する企業の業種や参入した地域の変化について、(2) は、食品関連産業に着目しながら企業が農業に参入するようになった社会的背景と目的について、説明することを求めた問いである。2009年の農地法改正により、企業の農業参入がどのように変化したのか、論理的に説明する力を評価した。

【講評】

(1) の解答状況はあまり良好ではなかった。全体的な読み取りはできているが、要点を押さえた記述には至らない受験者が多かった。なかでも、資料5の文章からの情報抽出ができて、図表E

との関連について解答している受験者は極めて少なかった。(2)の解答状況もあり良好ではなかった。企業の農業参入の目的についてはおおむね解答できている一方で、資料に基づかずに社会的背景を説明している受験者が多かった。この問いでも、法改正の前後の違いに着眼する必要がある、問いに即して事象や情報を読み取る力が身に付いているか否かで、大きな得点の差となった。

問3

【出題のねらい】

大手外食チェーン企業の撤退事例から、企業Aが撤退しないための対応策について提案を求めた。資料から失敗点を抽出し、さらに別の資料で与えた複数の視点をふまえながら、課題解決に導く力を評価した。

【講評】

解答状況はまずまずであった。この問いでは、農業から撤退した企業を事例に、この企業が農業を継続するためにはどのような対策が必要であったのか、失敗点をふまえたうえで提案することを求めた。失敗点については、資料より簡潔に整理して解答できていた。一方で、農業を継続させるための対策については、企業の農業参入の転機となった2009年の農地法改正を意識して解答しているのか判然としないものも多く、これらについては、十分な説明がなされていない解答であるとみなした。同様に、失敗点をふまえていても具体性に欠ける提案や、失敗点をふまえずに独自の視点で提案した解答については、大幅な減点となった。問いの趣旨を正確に理解し、全体的な事象を客観的に把握したうえで、論述するように努めてほしい。